

学校法人みどり学園
大阪健康福祉短期大学
機関別評価結果

平成22年3月18日
財団法人短期大学基準協会

大阪健康福祉短期大学の概要

設置者	学校法人 みどり学園
理事長名	平尾 達夫
学長名	秋葉 英則
ALO	西岡 正義
開設年月日	平成14年4月1日
所在地	大阪府堺市堺区田出井町2-8

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
介護福祉学科Ⅰ部		60
介護福祉学科Ⅱ部		30
子ども福祉学科		80
	合計	170

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

大阪健康福祉短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 22 年 3 月 18 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 20 年 7 月 2 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

建学の精神・教育理念は確立し、教職員・学生・保護者・受験予定者にも明確に示されている。教育目的・教育目標は、毎年、教授会・学科会議で点検し、確認している。

建学の精神・教育理念が反映された教育課程を編成し、専門に関する教養教育への取り組みもなされている。教育課程の点検・見直しも行われている。資格・免許が取得できる機会を提供している。授業形態のバランスは良いが、3 学科の性格上、選択科目は少ない。

専任教員数、校地・校舎とも、短期大学設置基準を充足している。図書館の蔵書数、学術雑誌数、AV 資料数、座席数は整備されている。学内外への情報発信も行っている。

3 学科とも、資格の取得率が高く、専門就職率も高い。就職先・編入学先からの評価は高い。

建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標、求める学生像は明示されている。ガイダンスは入念に行われ、シラバスや補足資料もそろっている。学生のメンタル・ケアやカウンセリングの体制が整備されている。

学生の教育を優先しているが、研究活動も活発である。研究発表をする機会は紀要『創発』がある。教員の研究室は、一部を除き、個室が整備されている。

地域に貢献する人材の育成という精神から、活発に活動している。公開講座、生涯学習講座、講演会、地方行政、市民講座にも参加し、ボランティア活動も活発である。

理事会、評議員会、教授会は寄附行為、学則にのっとり運営されている。理事会の補助的機関として経営委員会を置き、理事長・学長のリーダーシップが発揮されている。事務組織は規程類にのっとり運営されている。理事長・理事会、学長と教職員の関係は協力体制をとり、良好な関係にある。

財務については、収支バランス等に課題があるが、改善傾向が認められる。更に一層の努力を期待する。事業計画は教授会、経営委員会、評議員会、理事会等で決定・報告している。経理・出納業務は、規程にのっとり遂行している。公認会計士による指摘事項はない。災害、防犯、避難訓練、コンピュータのセキュリティ、省エネルギー及び地球環境保全の対策に取り組んでいる。

毎年、自己点検・評価を実施し、報告書を作成している。自己点検・評価には、全教職員が何らかの面でかかわっている。また、相互評価を行っている。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 3学科とも、約40人クラス、約30人クラスを基本に、授業・実習を行っている。さらに、10人以下のゼミを設定し、ゼミ指導教員が担当している。少人数による「クラス制」と「ゼミ制」を教育の2本の柱として、個別指導にも対応し、教育の成果を高める努力をしている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 正門から校舎までの視覚障がい者誘導用ブロック、障がい者用の駐車スペース、エレベーターの車いす利用者操作盤、障がい者専用トイレを設置している。車いすで校舎内の隅々までの移動が可能である。介護福祉学科、子ども福祉学科を擁する短期大学として、障がい者への配慮がなされている。
- 図書館は「図書館まつり」、大学祭「健福祭」への参加、「読書会」、「読み聞かせ会」等を実施している。また、「図書館だより」を発行している。卒業論文作成の時間にも活用されている。学生の図書委員22人を選び、学生が図書館運営にかかわる機会を与えている。学生の図書館への関心と利用率を高め、図書館の活性化につながっている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 3学科とも、2ヶ年間あるいは3ヶ年間の教育の仕上げとして、過密で厳しい教育課程の中で卒業論文を課し、「卒業研究論文集」として発刊している。400字詰め20枚であるが、質は高い。担当教員が綿密に指導し、学生の自立と自律、課題の発見と解決能力を身につけ、コミュニケーション力をかん養することにつながっている。

評価領域VI 研究

- 学長を含めて、大部分の教員が社会的活動に関与し、地域密着に貢献している。また、半数の教員が国際的活動に関与し、特に、ベトナム社会主義共和国に関する国際的活動は、双方向で行われており、活発である。

評価領域VII 社会的活動

- ベトナム社会主義共和国のホーチミン市立幼児師範学校（現在のサイゴン大学）との間に「学術交流協定」を締結し、教員・研究者の交流、学生の交流等、国際交流を双方向で進めている。将来、外務省の協力を得ることも視野に入れている。国際交流を充実させる意欲がうかがえる。
- 障がい者を理解し、障がい者との交流を深めるために、学生食堂の運営と清掃業務を社会福祉法人「コスモス」及び「いずみ野福祉会」の障がい者作業所に委託している。学生が、在学時代から障がい者を理解することにつながる。教育目標に標ぼうしている「地域協力」、「人権教育」の実践の一例となっている。
- 附属「福祉実践研究センター」を設置し、ケアワーク研究大会、常設の研究会、キャリア・アップ支援、地域支援活動、調査・出版活動等を行っている。学生の卒業後のキャリア形成の支援により、卒業生・地域との連携を深め、学び直しの実践、教育の継続、地域貢献へもつながっている。

評価領域X 改革・改善

- 平成 20 年度に浜松学院大学短期大学部と相互評価を実施しており、自己点検・評価に対する積極性がみられる。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域V 学生支援

- 学生の休学・退学を減少させるために、また、優秀な学生を確保し、卒業まで支援するために、独自の奨学金制度や授業料減免制度、特待生制度等の導入を検討することが望まれる。

評価領域VII 社会的活動

- 様々な活動を通して社会貢献をしているが、一つ一つの取り組みの終了後にアンケート調査をすることが望まれる。

評価領域IX 財務

- 介護福祉学科 I 部、介護福祉学科 II 部の学生確保の対策が望まれる。
- 収支バランス等に課題があり、改善傾向が認められるものの、更に一層の努力を期待する。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

建学の精神・教育理念は確立し、教職員・学生・保護者・受験予定者にも明確に示されている。昭和 55 年に設立された学校法人みどり学園は、平成 4 年、当該短期大学の前身である大阪総合福祉専門学校として認可された。その建学の精神・教育理念は、平成 14 年に設立された当該短期大学に継承され、新学科の増設や法規類の改正を契機に、見直しも図られている。

教育目的・教育目標は、毎年、教授会・学科会議で点検し、教職員が確認している。見直し・点検は、学長・副学長・学科長・事務局長等で構成される「運営会議」で検討し、教授会で審議した後、最終的に、理事会で承認を得ている。

また、教育目的・教育目標は、学生便覧に掲載し、入学後のオリエンテーション等で学生に周知させている。確認と周知として、「講師団会議」で、専任教職員だけではなく、兼任教員等にも徹底を図っている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

建学の精神・教育理念が反映された教育課程を編成し、教養教育を重視した取り組みもなされている。専任教員の担当科目も多く、教育課程の点検・見直しも行われている。

3 学科とも、資格・免許が取得できる機会を提供している。授業形態のバランスも良い。学科の性格上、選択科目は少なく、学生の選択の自由も少ない。学生の学習意欲は高い。

シラバス「講義概要」は、全学年・全学科の合冊で、A4 版で 1 科目に 1 ページを充てて整備され、オリエンテーション等を活用し、学生に懇切に説明している。

学生による授業評価を行っている。「ファカルティ・ディベロップメント委員会」を置

き、教育課程の改善・改革の取り組みが全学的に行われている。各学科会議で、教員同士の意思の疎通や協力体制を築いている。兼任教員との意思の疎通は、「講師団会議」で行っている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

3 学科とも、専任教員・助手の数、教授職の数は、短期大学設置基準及び関連の法規類の規定を充足している。教員の採用・昇任は規程に従って、厳格に行われている。教員は教育を第一の責務とし、教育目標との関連で、教員としての役割を果たしている。

校地・校舎とも、短期大学設置基準を充足している。講義室、演習室、実習室、情報処理関連の教室も整備され、教育の展開のための機器・備品も十分である。運動場、体育館も整備され、安全面も確保されている。

図書館の蔵書数、学術雑誌数、AV 資料数、座席数も整備されている。司書は 2 人である。図書選定・廃棄は規程に準じて行われている。学生用の参考図書もそろい、学生の利用率も高い。学内外への情報発信も行っており、他の図書館との連携も積極的である。図書館として、図書、視聴覚設備、情報処理設備の三つの機能を果たしている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

期末試験、レポート、実技、平常点、追・再試験等の結果を総合的に評価している。卒業時アンケート調査で、学生の満足度を測っている。2 種類の学生による授業評価の実施と検証も行われている。3 学科とも、全国平均と比較して、退学率・休学率がやや高いが、担当教員と保護者が面談して結論を出している。3 学科とも、過密な授業にもかかわらず、資格の取得率が高い。

前身の大阪総合福祉専門学校時代からの伝統と歴史があることで、就職先からの評価は高い。3 学科とも、専門就職率が極めて高い。附属「福祉実践研究センター」が卒業後のキャリア・アップを実施している。卒業生に関する情報は組織的には収集していないが、同窓会からの評価も高い。編入学者は数人で、余り多くはないが、連携校への進学を指導している。

評価領域Ⅴ 学生支援

建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標、求める学生像は明示されている。5 種類の入学者選抜がある。入学試験の体制は整備され、入学前ガイダンスを実施している。

入学者には学生便覧その他の配布物により、オリエンテーションを実施している。基礎学力が劣る学生には個別に対応している。問題を抱える学生の指導体制はできている。

学生のメンタル・ケアやカウンセリングの体制が整備されている。サークル活動・学園行事・学生協議会を支援する体制も整っている。保健室、学生談話室、相談室、食堂、売店も整備されている。学園独自の奨学金制度はない。学生の個別指導の際のベースとなるデータとして全学共通の「学生個人シート」を作成している。

就職支援体制は整っている。就職希望者が 80 パーセント前後で、就職率は 100 パーセントに近く、高い。海外への留学生はいない。進学希望者には個別の指導を行っている。

評価領域Ⅵ 研究

教員の研究活動は、全体的に、活発である。研究活動状況は、「大阪健康福祉短期大学教員総覧」に掲載し、情報を提供している。科学研究費補助金の採択もある。その他の外部研究資金は採択されていない。共同研究の一部は、ベトナム社会主義共和国での「高齢者介護セミナー」の成果を「ベトナムにおける高齢者介護を探る」にまとめ、紀要『創発』に発表している。

教員の研究成果は、毎月、全教員が参加する「学内学会」で発表している。1ヶ月に1回、介護福祉学科と子ども福祉学科から各1人が研究発表をしている。毎年、紀要『創発』を発行し、論文発表の場を提供している。教員の研究室は、一部の共同研究室を除き、個室が設置されている。教員は、1週間に4日以上の出校が義務付けられ、原則として、それ以外は、研究や研修に使用できる。

評価領域Ⅶ 社会的活動

「地域と結びつき、地域住民の社会的要請に応える」という教育理念から、活発に活動している。社会人を受け入れている。正規の授業公開はしていないが、公開講座、生涯学習講座を開講している。地域の行政、商工業、教育機関、文化団体等と効果的な交流がある。講演会、地方行政、市民講座にも参加し、堺市にも協力している。

地域との提携なしには存立しえない、という発想がある。全学的な活動として、附属「福祉実践研究センター」がかかわる活動、学生協議会がかかわる活動がある。ボランティア活動は、近隣の幼稚園・保育所・施設等から、夏祭り・秋祭り・クリスマス会等の季節の行事への参加が多い。

学科の性格からみて、留学生の受け入れ・海外派遣は難しい面がある。ベトナム社会主義共和国との双方向の交流が中心となり、教員の社会的活動・国際的活動が活発である。

評価領域Ⅷ 管理運営

理事会、評議員会は寄附行為にのっとり運営されている。常務理事、経営委員会を置き、運営会議、教授会を経て、理事会で決定している。理事長はリーダーシップを発揮している。

教授会は学則に基づいて運営されている。教育研究上の事項は、各委員会、学科会議で検討、運営会議を経て、教授会で決定している。学長のリーダーシップが発揮されている。

事務組織は管理及び運営に関する規程類にのっとり運営されている。スタッフ・ディベロップメント（SD）活動を行う組織はない。職員の研修・能力開発は、「教職員研修会」等を実施しており、学外で行われる各種研修に積極的に参加させて、資質の向上に努めている。

理事長及び理事会と教職員の関係は良好である。教員及び事務職員がそれぞれの権限・役割等を十分に認識し、協力体制をとり、良好な関係にある。教職員の健康管理は、定期健康診断を実施している。就業に関する規程は整備されている。

評価領域Ⅸ 財務

事業計画は経営委員会で、常務理事、事務局長が起案し、教授会、評議員会、理事会等で決定・報告している。経理及び出納業務は、規程にのっとり遂行している。募集目標額 1 億円の寄付を募っている。財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書及び監事の監査報告書を閲覧に供している。公認会計士の指摘事項はない。

教育研究経費比率は適切な水準である。介護福祉学科Ⅰ部、介護福祉学科Ⅱ部の学生確保の対策が望まれる。収支バランス等に課題があるが、改善傾向が認められる。更に一層の努力を期待する。

施設設備に関する規程類は整備されている。災害、防犯、避難訓練、コンピュータのセキュリティ、省エネルギー及び地球環境保全の対策に、全学的に取り組んでいる。

評価領域Ⅹ 改革・改善

自己点検・評価に関する規程として「評価委員会規程」が整備され、規程に基づき「評価委員会」が実施している。「評価委員会」は、ALO、学科長等の役職者、各委員会の委員長が構成員である。最終の段階で、「拡大評価委員会」を開催し、全教職員が参加している。開学以来、毎年、自己点検・評価し、「自己点検・評価報告書」を作成している。

自己点検・評価には、全教職員が何らかの面でかかわっている。毎年、発行する「自己点検・評価報告書」は教授会で読み合わせをし、各委員会でも参考にしている。その結果を将来計画を立案する際の参考資料にする意向がある。

相互評価は、平成 20 年度に、浜松学院大学短期大学部との間に実施している。外部評価は行っていない。相互評価や外部評価のための組織・規程等は設けていないが、第三者評価の結果を受けて、改革・改善に向けた真しな姿勢がうかがえる。